

# ふっこう訓練通信



令和8年3月／発行：葛飾区都市整備部都市計画課（担当：田上・山本・石塚）／電話：03-5654-8382

## 第4回 青戸地区震災復興まちづくり訓練を実施しました！

1月28日（水）18時半から「青戸地区 第4回 震災復興まちづくり訓練」を開催しました。ふっこう訓練通信第4号では、「第4回訓練」の様子をお伝えします！

当日の資料などは、区のホームページでご覧いただけます。

トップページ>くらし・手続き>安心・安全>防災・国民保護>震災復興まちづくり訓練について

ホームページへの  
アクセス  
はこちらから

### 第4回訓練（令和8年1月28日）

### 「青戸地区震災復興の進め方」をまとめよう の概要

#### 第4回訓練の内容

- (1) 第3回訓練の振り返り
- (2) 模擬説明会  
「青戸地区 復興まちづくり計画（骨子案）」
- (3) グループワーク  
『青戸地区 震災復興の進め方』をまとめよう
- (4) 発表
- (5) 解説 東京都立大学 中林 一樹 名誉教授

第4回訓練では、地域の方々26名にご参加いただき、「青戸地区 復興まちづくり計画（骨子案）」に関する模擬説明会を実施し、これまでの訓練をもとに作成した「青戸地区 震災復興の進め方（案）」について、グループワークで話し合いました。第4回訓練の様子は裏面をご覧ください。



#### 震災復興の進め方とは・・・

震災復興の進め方は、「復興の資源と課題」「復興まちづくり計画（骨子案）」「震災復興手順」等を取りまとめたものです。

大規模な震災などがあった場合には、震災復興の進め方をたたき台として、地域のみなさまと葛飾区が協働して復興を進めていくことになります。

訓練では、地域特性をもとに4つの班に分かれてグループワークを行いました。グループワークで挙げられた青戸地区の資源や課題に応じた整備内容、具体的な取組について、復興まちづくり計画（骨子案：右図）にまとめました。

#### 【目次】

- ・はじめに
- ・被害想定について
- ・青戸地区の復興の資源と課題
- ・青戸地区 復興まちづくり計画（骨子案）
- ・普段からできる取組をチェック！
- ・青戸地区の震災復興手順
- ・青戸地区 震災復興まちづくり訓練の記録



#### 青戸地区復興まちづくり計画（骨子案）

～多世代によるにぎわいと交流があり、地震や水害により強い、住み続けられるまち～

安全かつにぎわいのあるまちを目指すまちづくりルールと基礎整備 (A, B)

都市計画道路の整備 (C)

安全な道路空間の確保 (D, E)

接続道路の形成 (F)

商店街を核とした商業の活性化 (G)

液状化対策 (H)

新たな水害対策拠点の創出 (I)

緊急保設住宅の確保・運営 (J)

防災拠点の確保 (K)

防災拠点の確保 (L)

防災拠点の確保 (M)

防災拠点の確保 (N)

防災拠点の確保 (O)

防災拠点の確保 (P)

防災拠点の確保 (Q)

防災拠点の確保 (R)

防災拠点の確保 (S)

防災拠点の確保 (T)

防災拠点の確保 (U)

防災拠点の確保 (V)

防災拠点の確保 (W)

防災拠点の確保 (X)

防災拠点の確保 (Y)

防災拠点の確保 (Z)

## (1) 模擬説明会「青戸地区 復興まちづくり計画（骨子案）」

復興時は、地域住民と区が連携して作成した復興まちづくり計画について、合意形成を円滑に図っていくことが重要です。そこで、これまでの訓練をもとに作成した「青戸地区 復興まちづくり計画（骨子案）」について、区職員から具体的な内容を説明する模擬説明会を行いました。



## (2) グループワーク『青戸地区 震災復興の進め方』をまとめようでの主な意見

### 「復興まちづくり計画（骨子案）」について

- 「多世代」という言葉が良い。いろいろな人が助け合わないといけない。若者が来やすい街にしたい。
- 想定延焼エリアは道路がとても狭い。ポンプ車が曲がることもできない。望ましい幅員の道路確保は最優先になるだろう。
- 地元で復興を進めるため、地域に仕事があることが重要。ハローワーク的な機能も大事になる。

### 「震災復興手順」について

- 町会役員は避難所の運営で手一杯と思われる。復興については、町会以外の人の支援が重要だろう。地元の企業にも参加してほしい。
- 皆をまとめ、説得していくリーダーが必要。

### 「平時からできる取組」について

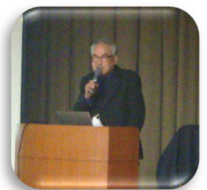
- 日常からの付き合いが大切。
- 空家対策も考えておくべきではないか。
- 地区内にある私立高校との協定も考えては。
- 今回の事前訓練のような活動を継続していきたい。



## (3) 解説 東京都立大学 中林 一樹 名誉教授

復興も事前に備えることができます。まちと個人の二つの復興があり、個人の備えは地震保険への加入です。水害についても特約で入れておくことができます。もう一つ皆さんにやっておいてほしいのは、**実践する事前復興**です。住宅の耐震性に、もし問題があれば耐震化をしておくなどの実践です。

まちの備えとしては、コミュニティ活動を活性化しておく。防災活動ではなくてもよい。何かあって声をかけたらみんなが集まってくる。そういうまちになっていることが災害の時にも大事です。今なら若い人にLINEなどを使って町会や地域のニュースを一斉発信してもらおう。コミュニティのネットワークを活用しつつ地区外避難者も最終的には青戸に戻り、例えば3年目には「青戸復興まつり」を開くような復興まちづくりを展開できないかと考えています。その手順が、今日の議論を踏まえてまとめる「青戸地区 震災復興の進め方」という冊子です。訓練に不参加の方にも、そういう経緯でこの冊子が作られ、皆さんの想いも込められていると伝え、被災後の復興に取り組みましょう。



### 【参加者から頂いたご意見】

- グループワークの意見と、先生のまとめ双方で話のあった「災害になる前に何が出来るかを考え、できる対応を行っていく」ことは改めて大切だと思った。
- 回を重ねるたびに参加者が増えた。人の輪が広がり、震災復興に対して向き合う時間ができたと思う。今後は、いかにこれを続け、あるいは変化させ、より良い対応ができるように考えていきたい。
- この他、訓練の進め方や、平時のコミュニケーションの大切さなどについて、ご意見をいただきました。貴重なご意見ありがとうございます。今後の訓練の参考とさせていただきます。

青戸地区震災復興まちづくり訓練では、全4回にわたり多くの方にご参加いただきありがとうございました。大規模な震災などがあった場合には、「震災復興の進め方」をたたき台として、地域のみなさんと葛飾区が協働して復興を進めていくこととなりますので、内容をご確認いただき、ご自宅で保管していただければ幸いです。